

POROUS-TUBE

00520438 西崎 暢仁

▶ CONCEPT



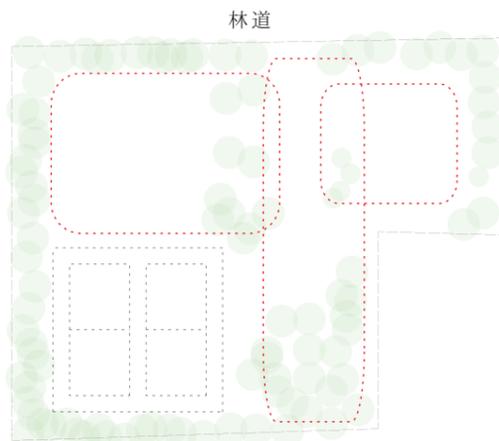
ストレス社会という言葉はもはや、我々社会人だけの問題ではない。
高校生という多感期な時期は最もストレスが溜まりやすい時期なのかもしれない。
その原因として、一つに挙げられるのは、「情報の消化」という言葉が適している。
携帯電話やメールからの受信は絶えず送られ、そして絶えず消滅していつている。
つまり、'記憶'としてなにも残っていない。
高校生という青春時代にしか残らない記憶を残してほしい。
林間学校とは、都会の喧噪から離れ、言わば、非日常的な環境との出会いなのである。
これまで、メールでしかやりとりのなかった友人や先生と触れ合い、語らい。
断片的な環境の連続の中で、最高の思い出を記憶として残してほしいと思う。

▶ IMAGE



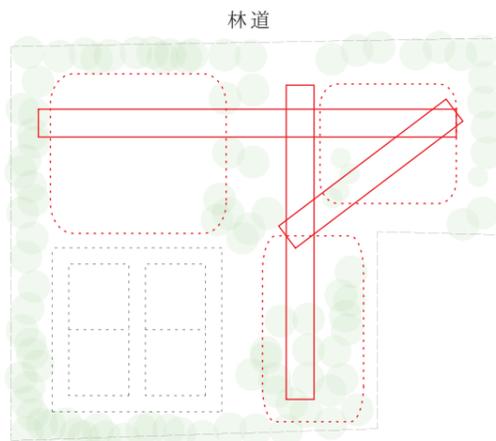
この、敷地を取り囲む林道のように、緑が生い茂った中でも、木漏れ日がやわらかく差し込み、
木漏れ日によってできた光と影によって心地のよい場所が出来上がっている。
ひたすら続く林道であるが均質さが無いのは、枝と幹によってポーラスな空間を構成しているからである。
連続しながらも気配や雰囲気が変わり、自然と同化する様な気持ちの良い空間を提案する。

▶ DIAGRAM



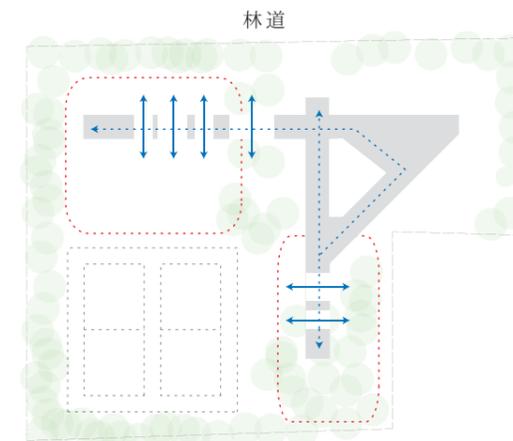
Zoning

敷地を木々やテニスコートの配置から大きく三つの特徴的な空間に分割した。
屋外活動の庭、針葉樹の立林、三方を
広葉樹で囲われた庭



4500-TUBE

4500 という細いチューブを三本配置する。
細く長いチューブは連続した空間を作り、
回遊性と庭を囲むことにより、象徴性が生まれる。



Porous

連続する細長い空間に軸を横切るような外部空間を
挿入する。単調な軸は断片的に分断され、外部（自然）
を意識する。外部空間の挿入は外壁に穴をあけ、
内部空間に光と影を作り出す。

